

Press Release 2023.07.13

石川真生 一私に何ができるかー



〈大琉球写真絵巻 パート9〉より 沖縄でバイレイシャル(ミックスルーツ)として生きること 2021

沖縄を拠点としながら精力的な制作活動が続ける写真家・石川真生（1953-）の初期からの主要な作品を始め、とりわけ2014年から取り組んでいる「大琉球写真絵巻」の新作を中心に展示し、石川真生の実像に迫る個展を開催します。

石川の作品は、2004年の横浜美術館でのグループ展「ノンセクト・ラディカル 現代の写真Ⅲ」において、沖縄以外の美術館で初めて紹介されました。以来、国内外での数多くの展覧会を経て、2021年には沖縄県立博物館・美術館にて回顧展「石川真生：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」が開催されました。本展は回顧展で示された成果も踏まえつつ、東京で初めての個展として開催します。

石川の写真は、国内外にパブリックコレクションがあり、その活動も広く知られているにもかかわらず、これまで発表された作品の流れを紹介する機会が多くありませんでした。本展では、初期の作品から最新作に至るまで、石川の作歴を概観することができると同時に、昨年沖縄の本土返還50周年を迎えるもなお、困難な状況に置かれている現代の沖縄という地政学的な最前線で撮影を続けている石川の活動をご覧ください。好機にもなります。

【開催概要】

展覧会名 石川真生 一私に何ができるかー
会期 2023年10月13日 [金] - 12月24日 [日] ＊プレスプレビュー 10月12日 [木]
会場 東京オペラシティ アートギャラリー
開館時間 11:00 - 19:00 (入場は18:30まで)
休館日 月曜日
入場料 一般1,400 [1,200]円 / 大・高生800 [600]円 / 中学生以下無料
主催 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
協賛 日本生命保険相互会社
お問い合わせ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

*同時開催「収蔵品展 077 ひとの顔」「project N 92 土井沙織」の入場料を含みます。 * [] 内は各種割引料金。
*障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。 *割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

■本展覧会に関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】天野太郎 【広報】市川靖子、吉田明子
Tel : 03-5353-0756 / Fax : 03-5353-0776 / Email : ag-press@toccf.com

【本展の見どころ】

石川真生は、1953年、沖縄県大宜味村おおぎみそんに生まれました。1970年代から写真をはじめ、1974年、WORKSHOP写真学校東松照明教室で写真を学びます。沖縄を拠点に制作活動を始め、沖縄をめぐる人物を中心に、人々に密着した作品を制作している写真家です。被写体となる人々に耳を傾け、立場を越えて取材することで引きだされるリアルな人間像は、沖縄の現実を生々しい切り口で暴き出しています。

1970年代、石川は、沖縄在米兵の黒人のためのバーに勤めながら同僚たちの女性とその奔放な生活を撮影した〈赤花 アカバナ―沖縄の女〉、そのときに会った黒人兵の故郷を訪ねる〈Life in Philly〉など、その時々の人間との出会いをきっかけに、立場を越えて写真を撮り続けるスタイルは、早くから確立されていました。

沖縄を拠点に、旧日本軍、自衛隊、米軍に関わりのある人物や出来事を取材し、国内外を問わず精力的な撮影を行いますが、共通しているのは、あくまでも個々人の人間性を見つめ、被写体に接近する石川の独自のまなざしです。

近年では、〈日の丸を視る目〉を契機とした、〈森花一夢の世界〉〈大琉球写真絵巻〉など、創作写真ともいわれる作品を発表し、被写体との信頼関係を基盤にした作品作りは変わらず、いまなお新たな制作に向けて取材を続けています。

本展は、1970年代の初期に発表していたプリントにはじまり、現在に至るまでの写真家活動を振り返ります。それぞれのシリーズから作品を選択し、とりわけ近年最も注力を注いでいる〈大琉球写真絵巻〉の近作、最新作を含め総数約170点もの作品を展示し、作家が築き上げてきた沖縄に対する独自のまなざしを紹介します。



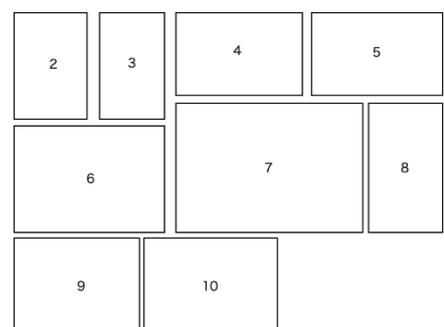
【作家略歴】

石川真生（いしかわ まお）

1953年、沖縄県大宜味村生まれ。1970年代から写真をはじめ、1974年、WORKSHOP写真学校東松照明教室で写真を学ぶ。沖縄を拠点に制作活動を始め、沖縄をめぐる人物を中心に、人々に密着した作品を制作している。2011年、『FENCES, OKINAWA』で、さがみはら写真賞を、2019年には日本写真協会賞作家賞を受賞。国内外で広く写真を発表し、沖縄県立博物館・美術館のほか、東京都写真美術館、福岡アジア美術館、横浜美術館、ヒューストン美術館（アメリカ）、メトロポリタン美術館（アメリカ）などパブリックコレクションも多数。

撮影：喜友名逸郎

【広報用画像】



【画像キャプション】

1. 〈大琉球写真絵巻 パート 9〉より 沖縄でバイレイシャル(ミックスルーツ)として生きること 2021
2. 〈Life in Philly〉より 1986
3. 〈赤花 アカバナー 沖縄の女〉より 1975-1977
4. 〈へり基地建設に揺れるシマ〉より 2002
5. 〈沖縄と自衛隊〉より 1993
6. 〈港町エレジー〉より 1983-1986
7. 〈基地を取り巻く人々〉より 2009
8. 〈沖縄芝居一名優たち〉より 1989-1992
9. 〈大琉球写真絵巻 パート 1〉より 2014
10. 〈日の丸を視る目〉より 2008